

平成18年度 第34回 茨城県ミニバスケットボール選手権大会 組合せ及び結果 (男子)

(出場枠)26チーム
 中央:8 県南A:4 県南B:5
 県北:4 鹿行:2 県西:3

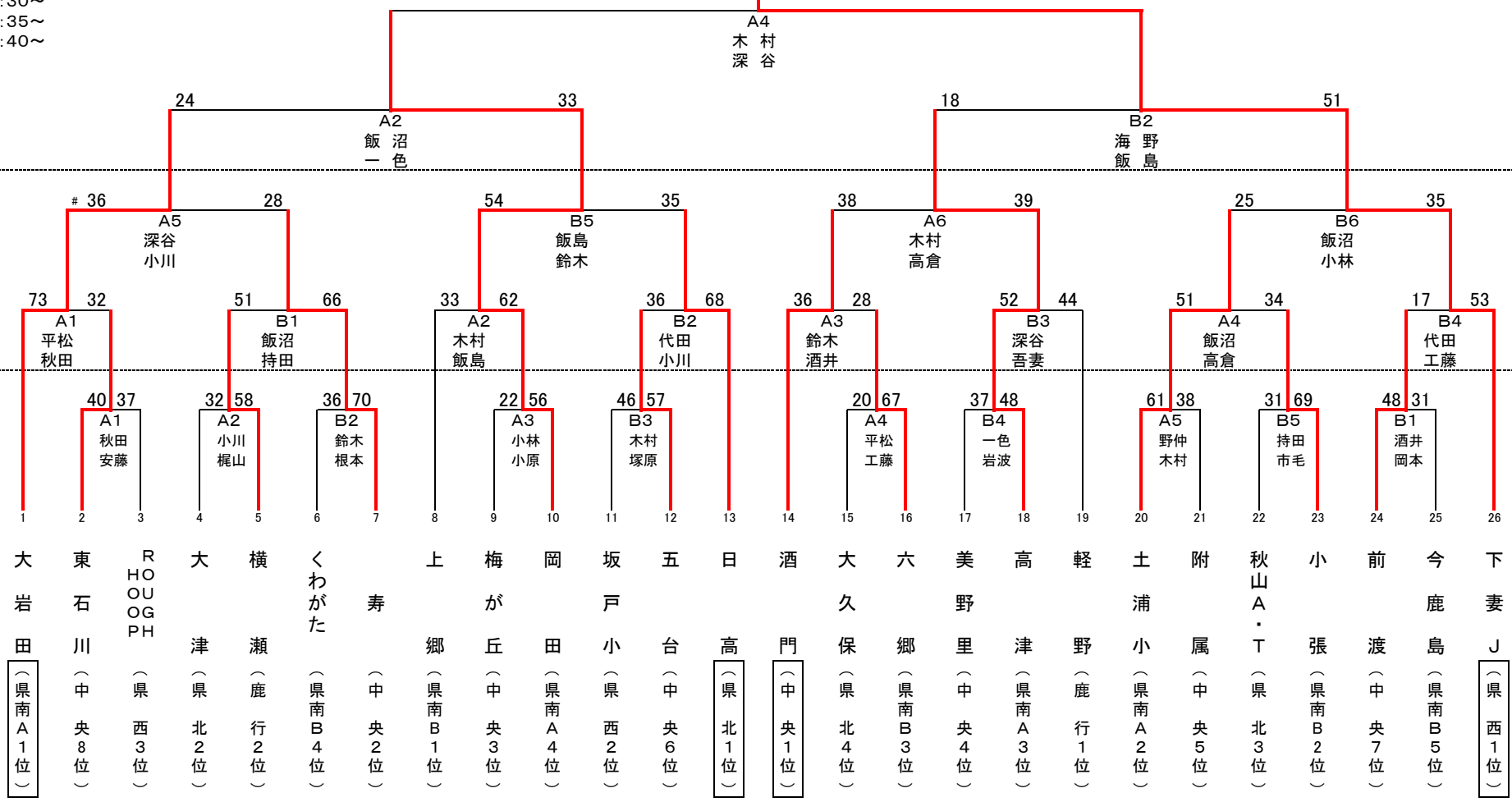
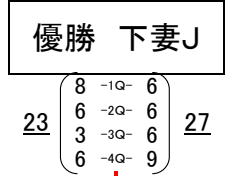
11/23(木) A・Bコート(スポーツセンター)C・D・Eコート(笠松運動公園体育館)
 11/25(土) A・Bコート(スポーツセンター)C・D・Eコート(笠松運動公園体育館)
 11/26(日) A・Bコート(スポーツセンター)

1. 9:15~
 2. 10:20~
 3. 11:25~
 4. 12:30~
 5. 13:35~
 6. 14:40~

11/26(日)
 (スポセン)

11/25(土)
 (スポセン)

11/23(木)
 (スポセン)



男子決勝戦・選評(小川由香氏筆)

1Q お互い緊張からボールが手に着かない中でスタート。下妻⑥ミドルシュートで先制。お互いプレスからのゾーン。岡田がルーズボールの取り合いからレイアップシュート。その後もお互いミドルシュートが決まり岡田2点のリードで1Q終了。

2Q 岡田⑥と下妻⑧のセンター争いの中、岡田⑬のゴール下のシュートが入る。下妻も⑦の1対1で得点し反撃。拮抗したまま14-12で後半へ。

3Q 岡田スローインのボールを旨いパス回しで⑥ゴール下シュートが決まる。下妻も④のロングシュートなどで応戦。お互い好ディフェンスが光り得点が伸びない。下妻が逆転し1点リードで最終Qへ。

4Q 岡田のトラベリングから下妻チャンスを生かし⑦のミドルシュートが決まり最終Qが始まる。お互い高さスピードを誇る両チーム、見応えの有るリバウンド対決、そしてプレスディフェンス。残り2分、下妻⑧がリバウンドからバスケットカウントを決めフリースローも決まり残り2分で6点リード。対する岡田も⑥がゴール下で頑張り必死の反攻。最後まで見応えの有る攻防続くも下妻が岡田の攻撃を守り抜き勝利。

ロースコアのゲームであったが、中学生のプレイを彷彿させる場面が多々有り、またミニバスのレベル向上を認識させてくれた、決勝戦に相応しいファイナルゲームで有った。

